

たしかめ

1

名 前

1

1 こくごの じかに しを かく。

2

2 もみじの はっぱが 紅こうようする。

3

3 もくようびに しゅうじを ならっている。

4

4 いっちゃんぐで ゴールした。

5

5 はちじっ歳さいで エベレストに のぼった とざんか。

たしかめ

1

5	4	3	2	1
登	着	習	葉	詩
八十歳 <small>いそ</small> でエベレストに登 <small>のぼ</small> った登山家。	一着でゴールした。	木曜日に習字を習 <small>まな</small> っている。	もみじの葉 <small>は</small> っぱが紅 <small>こう</small> 葉する。	国語の時間 <small>じかん</small> に詩 <small>うた</small> を書く。

たしかめ

2

名 前

6

ものがたりのとうじょうじんぶつ。

6

7

両^{りやう}ほうのてで荷^にもつをもつ。

7

8

たびにでて、おおきな^{かん}りよ館^とに泊^とまった。

8

9

これからあさのかいをはじめます。

9

10

にぎやかにすすむ おんがく隊^{たい}のこうしん。

10

10	9	8	7	6
進	始	旅	持	物
にぎやかに進む音楽隊 <small>たい</small> の行進。	これから朝の会を始 <small>は</small> めます。	旅に出 <small>で</small> て、大 <small>お</small> きな旅館 <small>たか</small> に泊 <small>と</small> まった。	両方 <small>りやう</small> の手で荷物 <small>にもの</small> を持 <small>も</small> つ。	物語 <small>ものがたり</small> の登場人物。

たしかめ

3

名前

[illegible]

のっそりと うごく どうぶつ、ナマケモノ。

[illegible]

ふかい
うみの
底に
いる
しんかいぎよ。

[illegible]

く|に|に|より|せい|かつ|の|よう|す|は|さま|ざ|まだ。

[illegible]

あめで
じめんが
いちめん
にみずび
たし。

[illegible]

15
ほんじつは、としよかの
きゅうかんび。

15	14	13	12	11
館	面	様	深	動
本日は、図書館の休館日。	雨で地面が一面に水びたし。	国により生活の様子は様々だ。	深い海の底 <small>そこ</small> にいる深海魚。	のっそりと動く動物、ナマケモノ。

16

16

ちずにはいろいろなきごうがある。

17

17

ちよう査して、しらべたことをき録する。

18

18

しようしたかみをつかってリサイクル。

19

19

難もんだ。せんせいにといい、やっとわかった。

20

20

てを挙げて、じぶんのいけんをいう。

20	19	18	17	16
意	問	使	調	号
手を挙 <small>あ</small> げて、自 <small>みづか</small> 分の意 <small>い</small> 見 <small>み</small> を言 <small>い</small> う。	難 <small>なん</small> 問 <small>もん</small> だ。先 <small>せん</small> 生 <small>せい</small> に問 <small>と</small> い、やっ <small>や</small> と分 <small>わ</small> かっ <small>か</small> った。	使 <small>し</small> 用 <small>よう</small> し <small>した</small> 紙 <small>し</small> を使 <small>つか</small> っ <small>て</small> リ <small>り</small> サ <small>さ</small> イ <small>い</small> ク <small>く</small> ル。	調 <small>さ</small> 査 <small>さ</small> し <small>して</small> 、調 <small>さ</small> べ <small>べ</small> た <small>た</small> こ <small>こ</small> と <small>と</small> を記 <small>き</small> 録 <small>ろく</small> す <small>する</small> 。	地 <small>ち</small> 図 <small>ず</small> に <small>に</small> は <small>は</small> い <small>い</small> ろ <small>ろ</small> ん <small>ん</small> な記 <small>き</small> 号 <small>ごう</small> が <small>が</small> あ <small>あ</small> る <small>る</small> 。

たしかめ

5

名前

21

21

よくあじわってたべよう。

22

22

にほんでいちばんおおきいみずうみは琵琶湖。

23

23

かんというくにのじだからかんじという。

24

24

なにをしようときみのじゆうだ。

25

25

おんせんにはいつてからだをあたためる。

25	24	23	22	21
温	由	漢	湖	味
温泉 <small>せん</small> に入 <small>い</small> っ <small>て</small> 体 <small>てい</small> を温 <small>ぬ</small> める。	何 <small>なに</small> をしよう <small>しよう</small> と君 <small>きみ</small> の自由 <small>じゆう</small> だ。	漢 <small>かん</small> という国 <small>くに</small> の字 <small>じ</small> だから漢字 <small>かんじ</small> という。	日本 <small>にっぽん</small> で一番 <small>いちばん</small> 大きい湖 <small>うみ</small> は琵琶湖 <small>びわこ</small> 。	よく味 <small>あじ</small> わっ <small>て</small> 食 <small>く</small> べよう。

26

26

にほんしゅは、こめから造るおさけです。

27

27

さくぶんにだいめいをつける。

28

28

さあしゅっぱつ。はっしゃオーライ、えんそくだ。

29

29

ぶんしょうをよくよんでかんがえよう。

30

30

たいらなかみにへいこうせんをかく。

30	29	28	27	26
平	章	発	第	酒
平 ら な 紙 に 平 行 線 を 書 く。	文 章 を よ く 読 ん で 考 え よ う。	さ あ 出 発 。 発 車 オ ー ラ イ 、 遠 足 だ。	作 文 に 題 名 を つ け る。	日 本 酒 は 、 米 か ら 造 る お 酒 で す。

たしかめ

7

名前

31

31

たすうけつで きめる。

2

32

だいじなことは よく かんがえて きめよう。

33

33

いわが らつか。おちた ところに 穴^{あな}が 開^あく。

34

34

困^{こま}ったな、そう 談^{だん}で きる あいてが いない。

35

35

せいよう 料^{りよう}りを ようしよく という。

35	34	33	32	31
洋	相	落	事	決
西洋料理 <small>りょうり</small> を洋食 <small>りやうしょく</small> という。	困 <small>こま</small> ったな、相談 <small>さうだん</small> できる相手 <small>あて</small> がない。	岩 <small>いわ</small> が落下 <small>りやくか</small> 。落ちたところに穴 <small>あな</small> が開く。	大事な事はよく考 <small>かん</small> えて決 <small>けつ</small> めよう。	多数決 <small>たすうけつ</small> で決 <small>けつ</small> める。

たしかめ

8

名 前

36

3 6

よそいきの ふくに き替えて できる。

37

3 7

つぎは なに？ それは じかいの おたのしみ。

38

3 8

つかったら もとの ばしよへ 返すこと。

39

3 9

都どう府けんの かずは 全部で よんじゅうなな。

40

4 0

ゆう料が 無料に なって あり難い。

40	39	38	37	36
有	県	所	次	服
有料 <small>りよう</small> が無料 <small>むりよう</small> になって有 <small>が</small> り難 <small>た</small> い。	都道府県 <small>ふ</small> の数は全部で四十七。	使 <small>し</small> つたら元 <small>もと</small> の場所へ返 <small>かえ</small> すこと。	次 <small>つぎ</small> は何 <small>なに</small> ?それは次回 <small>つぎ</small> のお楽 <small>たの</small> しみ。	よそ行 <small>い</small> きの服 <small>ふく</small> に着替 <small>か</small> えて出 <small>で</small> かける。

たしかめ

9

名 前

41

ひょうざんは うみに 浮^うかんだ こおりの かたまり。

4 1

42

いっぷんは ろくじゅうびょうです。

4 2

43

こめや や菜^{さい}をつくる しごとが のう業^{わざ}だ。

4 3

44

とりの はねの しくみを しらべる。

4 4

45

投げ^なた たまを バットで 打^うつのが やきゅうだ。

4 5

45	44	43	42	41
球	仕	農	秒	氷
投 げ た 球 を バ ツ ト で 打 つ の が 野 球 だ 。	鳥 の 羽 の 仕 組 み を 調 べ る 。	米 や 野 菜 <small>さい</small> を 作 る 仕 事 が 農 業 だ 。	一 分 は 六 十 秒 で す 。	氷 山 は 海 に 浮 <small>う</small> か ん だ 氷 の か た ま り 。

たしかめ

10

名前

46

4 6

薬やきよくで薬くすりをかう。

47

4 7

ぜんりよくを尽つくしたが、まったく歯はがたたない。

48

4 8

ひるやすみ、とも達たちとゆう具ぐであそんだ。

49

4 9

いちねんのきおんの変へん化かをひょうにあらわす。

50

5 0

いまとむかしのせいかつを比ひべる。

50	49	48	47	46
昔	表	遊	全	局
今と昔の生活を比べる。	一年の気温の変化を表に表す。	昼休み、友達と遊具で遊んだ。	全力を尽くしたが、全く歯が立たない。	薬局で薬を買う。

たしかめ

11

名前

51

51

よのなかの|ことを|しらない|せけん|しらず。

52

52

せかい|ちずで|ちゆう|ごくを|探^{さが}す。

53

53

はやい|そく|度^ぐで|くる|まが|は|しる|こう|そく|どう|路^ろ。

54

54

おう|断^{だん}|ほどの|よこ|で|待^まつ。

55

55

し|揮^き|を|する|ひとの|ゆび|さきを|よく|みて|うたう。

55	54	53	52	51
指	横	速	界	世
指揮 <small>き</small> をする人の指先をよく見て歌う。	横断 <small>だん</small> 歩道の横で待つ。	速い速度で車が走る高速道路。	世界地図で中国 <small>さが</small> を探す。	世の中の事を知らない世間知らず。

56

56

てつどうのせん路はてつでできている。

57

57

やすらかな寝がおをみてあんしんする。

58

58

ねらいをさだめ、あんでいしたどうさでゆみを射る。

59

59

荷もつをはこぶくるまのうん転しゆ。

60

60

よしゅうもだいじだ。

60	59	58	57	56
予	運	定	安	鉄
予習も大事だ。	荷物を運ぶ車の運転手。	ねらいを定め、安定した動作で弓を射る。	安らかな寝顔を見て安心する。	鉄道の線路は鉄でできている。

61

61

でんきをおくる
そうでんせん。

62

62

このいえに
すんでいる
じゅうにん。

63

63

あすはえんそく、
あまぐの
よういも
する。

64

64

おとしものを
ひろって
こうばんへ
届けた。

65

65

この
ほうこう、
すすめば
むこうの
やまに
つく。

65	64	63	62	61
向	拾	具	住	送
この方向、進めば向こ <u>う</u> の山に <u>着</u> く。	落とし物を拾って交番へ届けた。	明日は遠足、雨具の用意もする。	この家に住んでいる住人。	電気を送る送電線。

たしかめ

14

名前

66

66

きゅう

急なさかみちをのぼっていく。

67

67

かなしい
ひ劇げきの
ものがたり。

68

6 8

しんりよくの みどりの はっぱ、きれいだな。

69

6	9
---	---

かいかとは、はなのつぼみがひらくこと。

70

70

かいがんの
いわばで
あそぶ。

70	69	68	67	66
岸	開	緑	悲	坂
海岸の岩場で遊ぶ。	開花とは、花のつぼみが開くこと。	新緑の緑の葉っぱ、きれいだな。	悲しい悲劇 <small>げき</small> の物語。	急な坂道を上っていく。

71

71

つうがくろをと
おってとうこう
する。

72

72

ものがたりを
よんでかんど
うした。

73

73

いけんがたい
りつしてもた
いわで解^{かい}
けつ。

74

74

勉^{べん}きように
くぎりをつ
けてあそぶ。

75

75

ちきゅうは
たいようの
まわりをま
わっている。

75	74	73	72	71
陽	区	対	感	路
地球は太陽の回りを回っている。	勉強に区切りをつけて遊ぶ。	意見が対立しても対話で解決 ^{かい} 。	物語を読んで感動した。	通学路を通って登校する。

76

76

せいりして、机つくえのうえが ととのった。

77

77

さゆう ふたつのぶぶん_に わける。

78

78

すいえいで 得とくいな およぎは ひらおよぎ。

79

79

粉こなをねり、うどんづくりのれんしゅうだ。

80

80

はこぶのを 伝つたててくれて たすかったよ。

80	79	78	77	76
助	練	泳	部	整
運ぶのを手 ^つ 伝 ^だ ってくれて助かったよ。	粉 ^{こな} を練 ^ね り、うどん作りの練習だ。	水泳で得意 ^{とく} な泳ぎは平泳ぎ。	左右二つの部分に分ける。	整理して、机 ^{つくえ} の上が整った。

81

わらべうたをみんなで うたった 見^じどう集^{しゅう}かい。

81

82

もうし^こでることを しん告^{こく}という。

82

83

ひん質^{しつ}の 良^よい しなものが 揃^{そろ}った おみせ。

83

84

いろいろな しょうひんを あきなう しょうてん街^{がい}。

84

85

らいきやくを きやくまに おとおしする。

85

85	84	83	82	81
客	商	品	申	童
来客を客間にお通しする。	色々な商品を商う商店街。	品質の良い品物が揃ったお店。	申し出ることを申告という。	童歌をみんなで歌った児童集会。

86

86

ぎんこうにおかねを預ける。

87

87

過ぎさったきよねんのことをおもいだす。

88

88

にんげんよりなんばいもちからもちの象。

89

89

ふで箱の鉛筆をけずって勉強する。

90

90

しきじょうの飾りをつくってにゅうかくしき。

90	89	88	87	86
式	筆	倍	去	銀
式場の飾りを作って入学式。	筆箱の鉛筆をけずって勉強する。	人間より何倍も力持ちの象。	過ぎ去った去年のことを思い出す。	銀行にお金を預ける。

91

91

しよくりんは、やまにきをうえること。

92

92

たい育^{いく}かんにぜんこうがあつまり、おんがくしゅうかい。

93

93

おおむかしのせいぶつのかせき。

94

94

愛^{あい}けんがしんだ。かなしくて泣^ないた。

95

95

むかしはきょうとにみやこがあった。

95	94	93	92	91
都	死	化	集	植
昔は京都に都があった。	愛犬 ^{あい} が死 ^し んだ。悲 ^{かな} しくて泣 ^な いた。	大昔の生物の化石。	体育館に全校が集まり、音楽集会。	植林は、山に木を植えること。